

お話会の記録が絵本選択行動に与える影響

The effect of story-telling event log on picture book selection behavior

学籍番号：201121710

氏名：今満 亨崇

Michitaka IMAMITSU

集団に対する絵本の読み聞かせ（お話会）は子どもにとって良い効果があるとされ、様々な場所で行われている。お話会を行うには使用する絵本を選ぶ必要があるが、大量に存在する絵本の中から絵本を選ぶのは困難である。そこで本研究ではお話会の絵本選択を支援するシステム「よみびとしらず」を構築し、その効果を検証した。

よみびとしらずは、絵本の書誌情報、内容紹介、お話会の記録、レビューの4つの情報が登録されており、これらの情報の検索・閲覧が行えるシステムである。また、絵本を候補に挙げるかどうかの判断とそのために参考にした情報、判断理由などが記録可能なメモ機能をもつ。本研究ではお話会の記録が絵本選択にどのような影響を与えるのか明らかにするために実験を行った。

実験は公共図書館で12月に行われるお話会を想定し、そこで読み聞かせる絵本の候補、を実際にシステムを利用して挙げてもらった。被験者は過去にお話会を行ったことのある16名であった。この実験で被験者が絵本の取捨選択を行う際に、着目した情報と判断理由を集取した。

実験の結果、お話会の記録は他の3つの情報と比べても同程度参考にされており、絵本選択に与える影響がある程度大きいことが明らかになった。さらに、通常は絵本・読み手・聞き手の要素の内、絵本の要素に着目して絵本選択が行われるが、お話会の記録を参考にした場合のみ聞き手に着目することが明らかになった。一方、お話会の記録から絵本を探る被験者は少なく、検索語を推薦する機能の必要性が示された。

本研究により、お話会の記録が絵本選択に与える影響が明らかになった。今後の課題として、データの詳細な分析を行うことと、お話会の記録を検索する検索語の推薦機能の実装を行う必要がある。

研究指導教員：宇陀 則彦

副研究指導教員：松村 敦